

## 高齢者

天野勤（聖徳大学児童学部児童学科）

ここでは、平成26年8月30日（土）に開催された「松戸市社会教育計画策定支援に向けたワークショップ」の中で、「高齢者」グループ9人での討議および作業から出された結果をまとめて報告する。

### 1. 松戸市と市内の高齢者の状況

松戸市は、平成26年6～7月に20歳以上の市民3,000人に対し、社会教育に関するアンケート調査を行った（報告書は10月）。その結果から、60歳代と70歳以上の人が他の年代よりも上位にある項目についてピックアップしてみると、高齢者が行っていることや思っていることは圧倒的に健康に関することで、それをできるだけ手軽にお金をかけずに行いたい、ということであることがわかった。

これに対してワークショップでは、高齢者の活動を支える環境として松戸市を考えてみた結果、下のような状況が浮かび上がってきた。これを見ると、現在は必ずしも高齢者が暮らしやすい街とは言えないが、今後の工夫や潜在的な資源の活用等によっては高齢者も暮らしやすく生涯学習も行いやすい街づくりができるのではないかと考えられる。

#### <高齢者にとってのマイナス面>

- ・古い団地や古くからの住民が多く、高齢化が進んでいる。
- ・東京に隣接しているが、若者離れが進んでいる。
- ・市内の交通が不便で公共施設が利用しにくい。
- ・高齢者や子どもの居場所が少ない。

#### <高齢者にとってのプラス面>

- ・適度な自然や多くの史跡が残っている。
- ・病院の数が多く、高齢者が安心できる。

### 2. 高齢者向け計画のコンセプトと目標

これらをふまえ、高齢者が安心して生涯学習に取り組むための基盤となるまちづくり計画のコンセプトを次のようにまとめた。

#### ①地域を愛し地域で助け合う

高齢者は、現在の住まいが終の棲家となる人が多く、それだけ地域への愛着や依存度が大きいと考えられる。また親戚や子どもも次第に少なくなったり離れたりして、何か

あった時に助け合える近所の人との関係がより重要になってくる。

#### ②市民だれもが暮らしやすい松戸市に

高齢者が生き生きと暮らせるまちづくりは、高齢者のためだけを考えていても実現しない。他の世代への依存度が高い分、すべての世代がしっかりと暮らしていけるまちづくりを考えなければならない。

### 3. 具体的な事業提案

コンセプトを実現する具体的方法として次の事業が提案された。

- ①挨拶運動を展開し、地域の絆を深める。
- ②地域の絆を深めるために、地区のお祭りを起こす（復活させる）。
- ③市内巡回バスを増やし、交通の利便性を高める。
- ④公共施設のソフトとハードを、高齢者が利用しやすいように改善する。

### 4. 期待する成果

上記の事業は、必ずしも多額の予算と特別な知識・技術が必要というわけではなく、工夫次第で十分に実現可能な内容だと考えられるため、成果も期待できる。



松戸市各種団体連携研究会・ワークショップ  
「高齢者グループ」1日目の様子（2014年8月30日実施）

資料6 高齢者に関する事業(案)のクドバスチャート

<クドバスの成果>

事業例としては、次の10点が挙げられた。

1. 地域コミュニケーション 2. 施設の改善・充実 3. 図書館 4. 公園 5. 交通 6. 居場所づくり  
7. 情報 8. 教育・教養 9. リーダー養成 10. 環境美化

仕事	能力																			
	1-1	A	1-2	A	1-3	A	1-4	A	1-5	A	1-6	A	1-7	A	1-8	A	1-9	A	1-10	
1 地域コミュニケーション	町を挙げてのあいさつ運動		学校とタイアップした社会教育事業		地域の活性化		学校施設を活用した交流行事		大学生から高校生中学生、小学生へのコミュニティスペース		退職後のコミュニティづくり		高齢者が各方面活動できる場を		隣接地域との協賛事業		減災ベースのコンセプトが必要			
2 施設の改善・充実	2-1	A	2-2	A	2-3		2-4		2-5		2-6		2-7		2-8		2-9		2-10	
3 図書館	3-1	A	3-2	A	3-3		3-4		3-5		3-6		3-7		3-8		3-9		3-10	
4 公園	4-1	A	4-2	A	4-3	A	4-4	A	4-5		4-6		4-7		4-8		4-9		4-10	
5 交通	5-1	A	5-2	A	5-3	A	5-4		5-5		5-6		5-7		5-8		5-9		5-10	
6 居場所づくり	6-1	A	6-2		6-3		6-4		6-5		6-6		6-7		6-8		6-9		6-10	
7 情報	7-1	A	7-2	A	7-3	A	7-4	A	7-5	A	7-6	A	7-7	A	7-8	A	7-9	A	7-10	A
	広報の紙面の拡大		情報、広報の活用		子どもたちが多くの講座、イベントが有ることを知らない		情報の一元化		市民センター等に高齢者が情報交換できるスペースを作る		民間団体情報提供窓口		情報IT化推進		社会教育ナビの設置		インターネットSNSの活用		他市・多自治体の情報収集	
8 教育・教養	8-1	A	8-2	A	8-3	A	8-4	A	8-5	A	8-6	A	8-7	A	8-8	A	8-9	A	8-10	A
	小中高の授業の一環として高齢者のサークルを学校に招いて話を聞いたり体験する機会を増やす		生涯学習の講座では初回に楽しい雰囲気づくりとコミュニティづくりが上手できるとその後の活動が充実して長続きする		市内の史跡文化財について市民に理解してほしい		松戸を歴史文化を感じられるような街に		松戸の史跡文化財を市民が身近に感じられるように		市民が心の豊かさをもてるような教育を		高齢者が日常を生き生きと豊かに過ごすために社会性が大切である。		街頭リサーチキャンペーン充実化		親のコミュニケーション能力アップメソッド		中高生から知るセミナー	
	8-11	A	8-12		8-13		8-14		8-15		8-16		8-17		8-18		8-19		8-20	
	オープンキャンパスの地域開放イベント開催																			
9 リーダー養成	9-1	A	9-2	A	9-3	A	9-4	A	9-5	A	9-6	A	9-7	A	9-8	A	9-9	A	9-10	
	地域活性化リーダー養成講座		市民団体へのファミリーテーション・広報の研修充実		地域のリーダーにコミュニケーションづくりの知識や技術を教える研修会を開催		地域のリーダーとなる人の育成・支援		社会教育団体をまとめていく事務所を使用		まちづくりに商店、大学、行政がプロジェクトを組むこと		人材を活用できる仕組みづくり		高齢者、異世代子ども交流イベントの実施定例会		自主企画団体、社会教育団体の活用			
10 環境美化	10-1	A	10-2	A	10-3	A	10-4	A	10-5	A	10-6	A	10-7		10-8		10-9		10-10	
	市民側が松戸に自信をもてる街にする		駅周辺にもっと緑を		松戸をもっと美しい街にする		環境美化推進		松戸市を落ち着きと風格のある街にする		いまある、田園風景は是非残したい									

注：2014年8月、高齢者グループ 天野勲（聖徳大学）、伊藤博（まつど学びの旅推進協議会）、勝部健一（松戸史談会）、菊池恒（松戸農業サポート協議会）、栗原薫（邑楽町社会教育主事）、栗山康男（松戸あひる会）、斎藤淳子（松戸市健康体操連盟）、佐野友華里（松戸市教育委員会）、松田孝史（松戸史談会）計9名で作成。